

オンデマンド型オンライン授業における 双方向性を意識した授業構成と課題の実施

尾鷲 瑞穂

MIZUHO OWASHI

共立女子大学文芸学部非常勤講師

(本務先：国立環境研究所)

mowashi@kyoritsu-wu.ac.jp

owashi.mizuho@nies.go.jp

はじめに

この発表は、講演者（尾鷲）個人の意見であり、共立女子大学の教育方針や国立環境研究所の見解を示すものではない旨お含みおきください。

ご意見やご質問等は、尾鷲宛にお願いいたします。

本日の内容

1. 自己紹介
2. オンライン授業実施において感じた問題
3. オンデマンド型のメリットを生かした工夫
4. 今後の取り組み

自己紹介

(も兼ねて昨年度の状況)

2020年度の担当授業と本務の業務

共立女子大学大学文芸学部非常勤講師

担当授業

- 司書教諭課程科目（前期1コマ）
- 司書課程科目（後期1コマ）

決して多くはない

2021年度は、2020年度より担当授業が増えているが、昨年の方が時間に余裕がなかった

国立環境研究所での本務（情報部門）

研究所図書館の業務総括

- 蔵書管理システムのリプレイス
- リポジトリの立ち上げ準備開始
- 研究員等のリモートワーク支援

フルタイムです。

2020年度の
追加業務

時間の工面も求められた一年

- 大学の授業で半期（15コマ）すべてを1人で担当するのは初めて
 - 2020年3月まで対面授業のつもりで準備していた
 - 授業構成も資料の作成も手探り
 - 大学の授業システムの把握にも時間を要した
 - 資格課程の授業
 - 標準的に教えるべきことは盛り込まなくてはならない
- 本務の業務が想定外に増加
 - 所員のリモートワーク支援
 - 図書館のセミナーやレファレンスをオンラインで対応
 - 構成員向けのe-learningコンテンツの作成・提供
 - 研究員から動画配信関連の著作権の相談が増加

本務の業務は増加したものの、むしろ大学の授業実施に役立った

オンライン授業実施において 感じた問題

非常勤講師ならではの困りごと



大学から原則オンデマンドでのオンライン授業を実施するよう連絡があったものの…

- 大学の授業システムの使い方がわからない
- オンライン授業の大学の方針の把握



直接的ではなくても、
大学からの支援ありがたい。

大学よりシステムの詳細なマニュアルが提供され、
教材の事例紹介などもしてくださったので、
オンラインでの配信は徐々にスムーズになりました。

担当授業の概要(前期)

2020年度 司書教諭課程 「読書と豊かな人間性」

授業形式：オンデマンド(一部ライブ配信) 40名強

教材：動画による解説、精読文献の指定
ポイントのまとめ資料

課題：通常レポート (3回)
PBL (Project Based Learning) 提案提出
リアクションペーパーの提出も別途あり

フィードバックの方法：学生個人へのコメント
一部ライブ配信で解説

担当授業の概要（後期）

2020年度 司書課程 「児童サービス論」

授業形式：オンデマンドのみ 40名強

教材：動画による解説、精読文献の指定

課題：小テスト（3回）時間制限あり

通常レポート（2回）

ブックレビューと講評の作成

リアクションペーパーの提出も別途あり

これだけこなした学生が
むしろすごいと思う

フィードバックの方法：

学生個人もしくは受講生全体へのコメント

学生から学生へのフィードバック

オンデマンド授業は学生が迷子になりがち

授業で学ぶことよりもレポートをこなすことのほうが重要になってしまう。

→レポート地獄の弊害



前後の授業とのつながりも曖昧なまま、先に学習を進めてしてしまう。

→体系的に授業を構成しており、学ぶ順序にも意味があるのですが…



提出した課題が適切なレベルだったか。
自信が持てない。



授業の構成で留意したこと

- 授業全体の体系を意識しながら、何を学ぶ講義なのか、念頭において学べるようにする
- 他者の見解も含めて、学生自身が行き組んだ課題の振り返りが出来るようにする



オンデマンドで、皆が同時に学んでいなくても、他者の存在が感じられる（双方向性のある）授業にしたかった。

オンデマンド型のメリットを
生かした工夫

授業の方法（手段）

指定文献精読

- レポート課題の際に指定文献を指示。
- 先にレポートに取り組み、後で解説と質疑応答を行うアクティブラーニング形式をとった。
- 指定文献は、オープンアクセスのものに絞った。（都内の図書館がほぼ閉館状態）



講義動画視聴

- スライドの解説を動画にして配信。
- 内容に合わせて、動画は分割。
- スマートフォンでも視聴できる容量の動画になるように編集。（画質も無駄に上げない。アクセス性重視）



ライブ配信

- レポート課題の補足授業。
- 授業の指定の時間割の範囲で、30分程で行った。
- チャットも併用。

解説はオンデマンドの動画、課題の補足はライブ配信と切り分けた。（学生が混乱しないように）

授業動画作成での工夫

- 1回の授業で配信する動画は、2～3本に分割。
1本20～30分程度。
→区切って学修することも想定。
- 各動画の最初に、目標や目的を内容とともに明示。
→学修内容を明確にするため
- PBLやブックレビュー作成など、通常のレポートと異なる課題を課す際は、課題の手順を別途動画で解説
→取り組む学生の不安を軽減するため

課題提示は「目標」を明確にする

朱字の部分は、課題の位置付けを示すため、どの到達目標の課題であるのかを記すようにした

シラバスの「到達目標」の一つである「読書および読書指導の必要性を深く理解し、それを他者に説明できる」ようになるために、読書による人間性の育みと読書及び読書指導(教育)の必要性について考えます。指定する調査報告書を読み、以下の指示に従ってレポートを作成してください。

「読書と豊かな人間性」の課題より

授業教材の配信スケジュールを先に示した

- 各回の授業で配信する教材や課題の種類、締め切り日も先に提示
→半期通して計画的な学びにつなげられるように
- フィードバックの予定も入れることで、復習のタイミングも図れるようにした
- 教育実習や介護体験実習を考慮して受講期間を設定。
→学修機会が失われないように

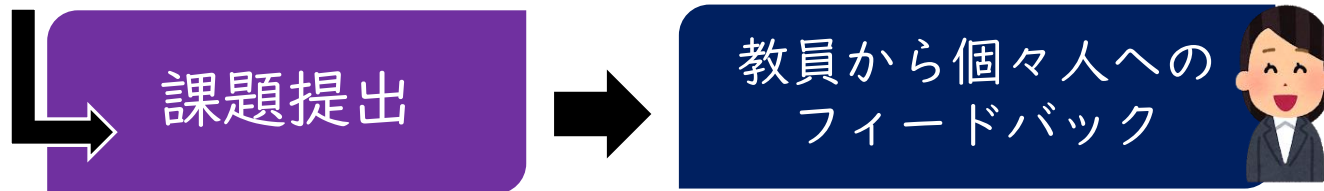




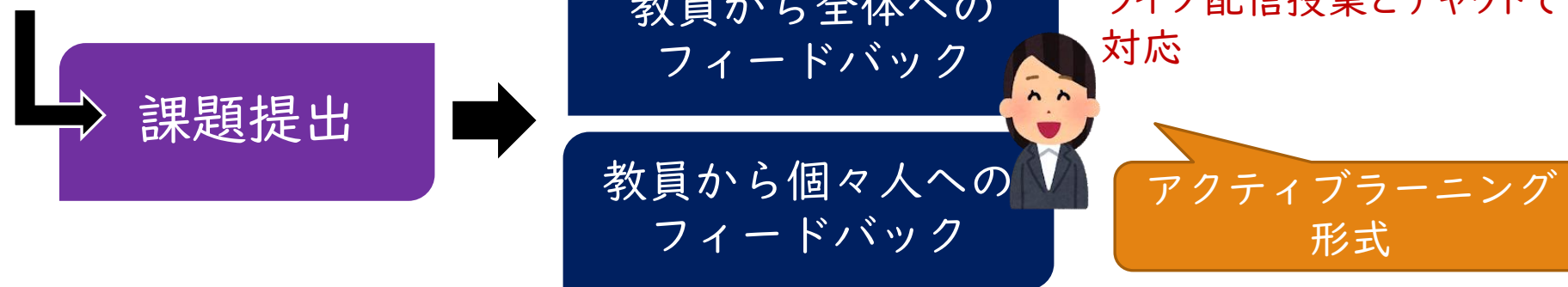
評価方法		・レポート(3回) 40% →理解度で評価 ・PBLの成果内容 30% →出来栄で評価 ・平常点(出席/リアクションペーパーの提出状況) 30%			
回	授業日	テーマ	指定教材	提出課題	フィードバック
1	5月4日	読書教育の意義と目的	課題文献精読	レポート	・各回の課題に対するコメント ・要点ポイント資料の配布 適宜 kyonetに掲載
2	5月11日	読書教育と学校図書館	課題文献精読	リアクションペーパー	
3	5月17日	読書指導と指導要領	課題文献精読	レポート	
4	5月24日	読書教育の系譜	課題文献精読	リアクションペーパー	
5	6月1日	子どもの読書環境	解説動画視聴 (3本)	リアクションペーパー	
6	6月8日	子どもの本の種類と提供	解説動画視聴 (3本)	リアクションペーパー	
7	6月15日	読書環境の整備と展示	解説動画視聴 (2本)	リアクションペーパー	
8	6月22日	子どもと本を結ぶための方法(1)	解説動画視聴 (2本)	リアクションペーパー	
9	6月29日	子どもと本を結ぶための方法(2)	解説動画視聴 (2本)	リアクションペーパー	
10	7月6日	発達段階に応じた読書指導と動機付け(1)	解説動画視聴 (2本)	PBL(Problem-based Learning)課題	・授業時間内配信による解説(30~45分程度) ー第1回「読書教育の意義と目的」の解説
11	7月13日	発達段階に応じた読書指導と動機付け(2)	解説動画視聴 (2本)		・授業時間内配信による解説(30~45分程度) ー第2回「読書教育と学校図書館」の解説
12	7月20日	個に応じた読書指導と動機付け	解説動画視聴 (2本)		・授業時間内配信による解説(30~45分程度) ー第3回「読書指導と指導要領」の解説
13	7月27日	読書指導の推進と司書教諭・学校司書の役割	解説動画視聴 (2本)		・授業時間内配信による解説(30~45分程度) ー第4回「読書教育の系譜」の解説 ・課題に対するコメント ・要点ポイント資料の配布
14	8月3日	他種機関・地域社会との連携	解説動画視聴 (2本)	最終レポート	・課題に対するコメント ・要点ポイント資料の配布
15	-	まとめと振り返り			

フィードバックは複数の方法で実施

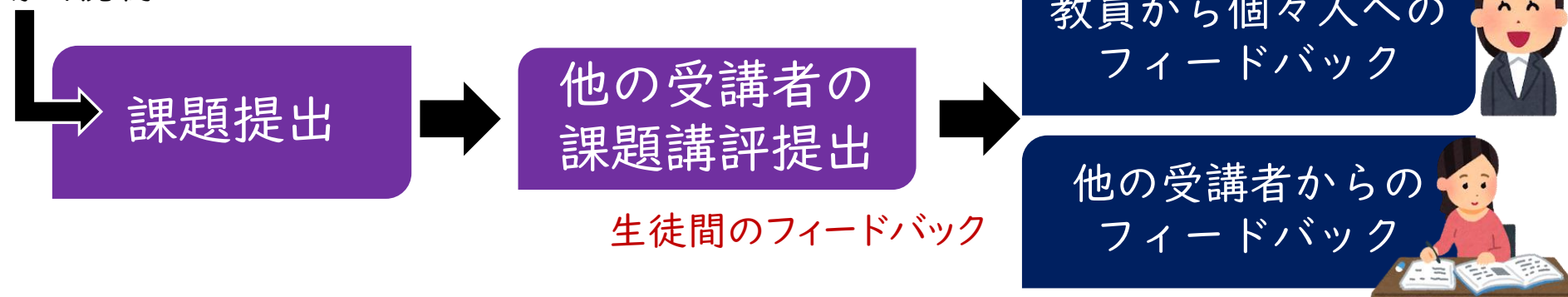
動画視聴



指定文献精読



動画視聴



ブックレビューの作成と学生による講評

司書として図書を利用者に紹介出来るようブックレビューの作成と併せて、他の学生のブックレビューを講評する課題を課した

ブックレビュー作成方法の講義

学生自身で選書
ブックレビュー作成



講評の視点とポイントの講義

他の学生の
ブックレビューの講評

匿名で実施

他の学生の成果を
講評する機会

成績評価は
両方を鑑みて行う。

他の学生からの講評と
教員からの講評で振り返り

教員以外からの
講評を得る機会

今後の取り組み

昨年度の反省点

- 複数の方法を試行錯誤しながら授業を行ったものの、効果的な組み合わせの評価までは出来なかった。
- レポートが十分に書けていなかった学生に対して、不足している点の示唆にとどまってしまう、改善まで行えなかった。
- 図書館業務の実技については、解説のみで、実際に目にする機会を作れなかった。
 - コロナ禍で公共図書館も閉館していたり、行事も軒並み中止になったため、学生自身が図書館のサービスを目で見て知ってもらうということが出来なかった。

今年度取り組んでいること

- 1回の授業の中で、複数のインプットの方法を組み合わせる（配信講義動画と指定文献の精読を同じ回で行う）
→飽きの少ない授業にするために
- レポートの作成経過途中でアドバイスできるような授業構成
→知識のアウトプットに自信を持ってもらえるように
- 実技的要素の強い内容（読み聞かせやブックトークの方法など）は、実演したものを教材にしたい
→著作権の問題があるため可能な範囲で検討中。

まだまだ試行錯誤中です。





ご静聴ありがとうございました